

さわやか 北陸

No. 55

Mar.2018



河北潟周辺地区のエアリーフローラ（石川県金沢市）

主 な 内 容

- 巻 頭 言 : 北陸地方に来て想うこと
- ト ピ ッ ク ス : ペザンは河北潟でハーブ生産を通じて農福連携に取り組中
: 坂井北部地域における営農振興に関する意見交換会
: スtockマネジメント技術高度化事業（アيسピグ工法）
: 将来の豪雨リスクを評価する手法（加賀三湖地区を事例として）
- 現 地 情 報 : 国営土地改良事業地区調査「河北潟周辺地区」の状況
: 国営施設応急対策事業「早月川地区」の概要
: 国営施設応急対策事業「河北潟地区」の工事実施状況
: 国営施設機能保全事業「射水平野地区」の工事実施状況

農 林 水 産 省

— 北陸地方に来て想うこと —

北陸農政局

地方参事官（特命・事業計画）

茂木 重信



平素より、皆様方には、農業農村整備事業の推進に当たり、格段のご理解とご支援を頂戴し、誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

昨年の4月に北陸農政局地方参事官として異動で参りました。金沢の地は、加賀百万石に代表される歴史と伝統、文化が培われ、建物や街並みにその足跡や美しさ、風情を残しつつ、新旧がうまく折り混ざって独特の景観美を創り上げています。また、海外の旅行者も多く訪れ、従来に増して観光都市としてめざましい発展を続けており、新たなホテルなどが至る所で林立しようとしています。農業体験やイベント、農泊など農村の関係人口を増やし、農家や地域の所得向上につなげようと取り組んでいる現在、国内外のこの波が地方都市から農村地域へ広がることを願っております。

着任以降、管内各県の農業・農村地域の現場に伺い、現状を拝見し、農業者の方々の声を聴かせて頂きました。大穀倉地帯として、稲作を中心とした農業が展開されていることを改めて実感したところです。しかしながら、少子・高齢化と食生活の多様化による米の需要は減少傾向となっており、水田農業を維持発展させていくには、生産コストの低減や水田園芸（高収益作物）の導入が重要課題と考えられています。この地域の自然条件や地理的条件、とりわけ冬場の環境を考えると水田園芸の取り組みの難しさがありますが、基盤整備を進めるに当たっては、営農指導部局や流通部局等と連携した地域特性に即した高収益作物の導入等により、農家所得の向上に努めることが望まれます。

さて、昨年末に平成29年度補正予算及び平成30年度予算の政府案が決定されました。農業農村整備に関する予算として、平成30年度予算案は対前年度328億円増の4,348億円が計上され、平成29年度補正予算案の1,452億円と合わせると5,800億円の規模となります。農林水産省予算全体が2兆3,021億円で対前年度比99.8%である中、農業農村整備事業関係予算では対前年度比108.2%という高い伸び率となっています。今後、国会審議がなされることとなりますが、その中で、土地改良法の改正を背景に、担い手への農地集積・集約化を加速化させていくための「農地中間管理機構関連農地整備事業」や、老朽化が進む農業水利施設においても突発事故等に迅速に対応できる「土地改良施設突発事故復旧事業」が創設されたほか、事業実施手続を簡素化するなど使い勝手の良い事業制度が整備されました。また、新たにきめの細かい長寿命化対策、防災減災対策を行う「農業水路等長寿命化・防災減災事業」も創設されました。

また、前述のとおり、昨年9月に土地改良法が改正されたところですが、「農業競争力強化プログラム」で明記された土地改良区の在り方について、土地改良区の実態調査や意見交換を通じて現場ニーズが把握され、組合員資格の見直しや業務執行体制の強化等を内容とする土地改良法の一部改正の検討が進められ、今国会に提出する予定となっています。担い手への農地集積が進む中、今回の改正が土地持ち非農家の増加を踏まえた組合員の在り方や土地改良区が行う事業・組織運営について円滑かつ効率的に行われる仕組みとなるよう期待しています。

もうすぐ1年が経ちますが、今後とも、北陸地域の農業の維持発展及び農村地域の活性化に向け努力して参る所存ですので、国営土地改良事業の調査及び計画等を担っている西北陸土地改良調査管理事務所ともども、引き続きのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

1. そもそも、農福連携とは

担い手の高齢化や減少が進む農業分野と、障がい者らの働く場を求める福祉分野の連携が広がっており、土に触れ、植物を育てる農業自体が癒やしにつながることも期待されています。

そこで、農林水産省等の関係省庁、自治体が農業の障がい者就労マニュアルの作成、農家と福祉施設をマッチングし、農作業の受委託を進めること等を総称し「農福連携」といいます。

2. 河北潟干拓地でのハーブ生産について

河北潟ハーブ農園ペザンでは、ロケーションの良さを活かして、平成14年から干拓地でハーブ生産を始めました。当初は生産や販売がメインでしたが、その後、取組を拡大し、現在では、ハーブガーデンのプランニングや各種体験（摘み取り体験、石窯ピザ作り体験、リース作り体験）、オリジナル製品（ハーブ棒茶、日本酒サングリア）の製造販売など、6次産業化に取り組むほか、近隣保育園内の草刈・ハーブ定植等を行っています。以下は、左からペザン事務所外観、店内、そして昨年、設置したトイレは、障がい者の方々から好評です。



3. ハーブ生産における農福連携について

農福連携のきっかけは、平成26年に金沢市内の就労支援事業所からの依頼により、障がい者にハーブ収穫を手伝ってもらったことでした。太陽の下で土や植物に触れることにより、体調が劇的に好転したとのことで、障がい者やご家族から喜ばれました。

その後、徐々に取組が拡大し、現在では最大17人/日、延べ約4,300人/年の障がい者と支援事業所からの支援員を受け入れ、収穫や加工作業等を行っています。

取材当日は、以下写真のとおり作業場で、障がい者の方々が「日本酒サングリアもも」を加工中で、厳密な衛生管理の下、一つ一つ丁寧にハーブの分別・計量・袋詰めの中でした。



上の写真はペザンH. P. 引用

4. 今後の展開方向等

これまでペザンでは、北陸農政局農村計画課（農福連携担当）や石川支局等と情報交換を行い、取組を拡大してきたところで、今後は、「農福」を中心とした「医」や「学」の連携も予定しています。前者は製薬会社とハーブを用いた医薬品の開発を模索中で、後者はすでに金沢市内の製菓専門学校や保育専門学校の学生がハーブ収穫等の実習を行っています。

最後に、ペザンにとってハーブとは、「医」を含めて、健康状態のみならず、生活の質の向上に資するものであり、引き続き、ハーブとともに活動していきたいと考えています。



坂井北部地域における営農振興に関する意見交換会 ～坂井北部地域の農業者とワークショップを開催！～

1. 坂井北部地域の現状

坂井北部地域では、昭和43年から昭和61年にかけて「国営総合農地開発事業」により畑地造成等が実施され、一大園芸産地が形成されました。

福井県では、企業の農業参入を積極的に進めており、福井県最大の園芸産地である本地域では、イオンアグリ創造(株)、神栄アグリテック(株)及び(株)フィールドワークスなど、様々な企業が参入しています。

しかしながら、事業完了から約30年経過した今、園芸生産力の低下や農業水利施設の老朽化など、様々な課題が生じています。

2. 営農振興に関する意見交換会

地域の営農・農業水利施設の現状、課題の把握を行うため、平成28年度から広域農業基盤整備管理調査（完了地区フォローアップ調査）を実施しています。

平成29年11月21日(火)、丘陵地農業団地センター（福井県あわら市）において、担い手である農家や農業参入した企業及び農業関係機関(福井県、あわら市、坂井市、坂井北部土地改良区、丘陵地農業支援センター)など、約40名の参加により「坂井北部地域における営農振興に関する意見交換会」を開催しました。

本意見交換会は、坂井北部地域の農業者・農業関係機関と一緒に、地域農業の実情や特徴を踏まえた発展方向を検討することを目的としています。

意見交換会は、ワークショップ形式で3班(営農者6名、関係機関3～5名)に分かれ、①営農のセールスポイント、②課題を解決するためのアイデア出しを行い、意見をまとめた後、班ごとに発表し参加者全員で共有しました。

営農の課題としては「規模を拡大したいが労働力の確保が難しい」「冬水がないため、施設園芸の多様化が難しい」、解決のアイデアとしては「農地の集積等により、農業生産力を向上することで収入を確保し、働く人に農業を選んでもらえるようにする」「冬水の確保により周年栽培に取り組みやすくする」など数多くの意見が出され、終了予定時刻を超える盛況ぶりでした。



グループによる意見だし



班毎の発表

1. はじめに

「アイスピグ工法」とは、特殊アイスシャーベットを用水管に注入し、数十～数百mのシャーベットの塊を水流と水圧で押し流し、固着物を巻き込むようにして洗浄する工法です。

2. 洗浄方法

洗浄対象のパイプラインの諸元は、表-1のとおりです。

平均口径を200mmとし、8.8tのアイスシャーベットを約30分かけて注入しました（充填距離約280m）。

注入が終わると揚水機場のポンプを稼働させ、水流と水圧で圧送します。

出口からは、写真-1、2のとおりヘドロや赤さびを巻き込んで、茶色くなったアイスシャーベットが排出されました。

表-1 洗浄路線諸元

路線	路線一	路線二
管種	塩化ビニル管	塩化ビニル管
口径	φ 100～φ 250	φ 100～φ 250
延長	1.5km	1.8km



写真1 洗浄前アイスシャーベット



写真2 洗浄後アイスシャーベット

3. 洗浄の効果

洗浄をすることで、パイプラインの有効断面が広がり揚水機場の圧送能力が改善されていることを確認するため、流量及び圧力調査を実施しました。

その結果、路線により改善された圧力に差はあるものの、どちらの路線も同等の水量を流すのに必要な圧力が低減されていることがわかりました。

表-2 流量及び圧力調査

		流量(m ³ /h)	圧力(kg/cm ²)	圧力差	含氷率
路線一	事前	55.08	1.53	0.20	72%
	事後	55.08	1.33		
路線二	事前	61.20	1.94	0.61	76%
	事後	61.20	1.33		

また、パイプライン内にカメラを挿入して洗浄前後の管壁を確認した結果、夾雑物の固着が改善されており、「アイスピグ工法」での用水管の洗浄が有効であることを確認できました。

将来の豪雨リスクを評価する手法 ～加賀三湖地区を事例として～

1. はじめに

近年、全国各地で激しい豪雨が頻繁に発生し、低平水田域ではこの豪雨によって内水氾濫、浸水被害が引き起こされています。そのため、対応策として将来の豪雨の影響を見越した新たな排水計画手法や流域一体での水管理手法の策定が望まれますが、それには農地湛水による作物減収等のリスクを評価する必要があります。しかし、評価の際に使用する気候予測モデル（GCM）の出力（気候シナリオ）は、GCMの種類や計算手法等の諸条件により結果が異なるため、従来のように単一の雨量、波形を持つ将来の計画基準降雨を定められません。

そこで本研究では、石川県の国営加賀三湖土地改良事業地区を対象として、複数の気候シナリオから得た豪雨の特性を考慮して、想定される将来の確率雨量の出現分布を確率的に表現し、その分布を入力値に用いて得た水稻被害量の確率分布から、リスクを統計的に評価する手法を提案しました。

2. 成果の内容・特徴

- (1) 開発した手法は、複数GCMの特性を反映させた豪雨データの発生、湛水解析に基づく水稻の冠水被害量の算定、被害リスクの統計的評価の3段階からなります（図1）。
- (2) 収集した気候シナリオ毎に、豪雨の発生頻度、雨量強度に関する特性値を抽出します。これらの値の出現確率を考慮し、様々な特徴を持った豪雨群を多数模擬発生させることにより、多様な時間集中度前方～後方集中型の降雨波形）の豪雨パターンを設定でき、雨量と降雨波形の両方の変化が被害に与える影響を評価できます。
- (3) 同手法を現在、近未来等の期間に適用すると、それぞれの期間で確率雨量の分布が得られます（図2）。図2の例では、将来になるほど雨量の増加傾向が見られます。
- (4) 水稻被害量は、水田域の湛水解析の結果である水稻冠水深やその継続期間、生育時期等の冠水条件に対応した水稻の減収尺度を使用して定量的に算定します（図1（2））。

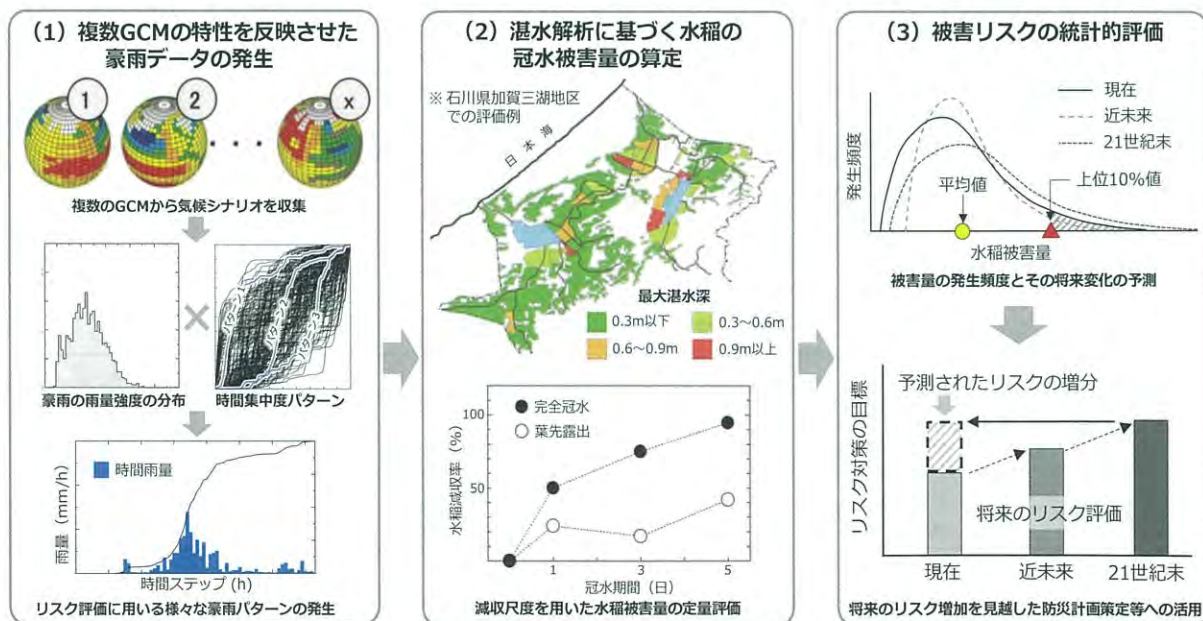


図1 気候変動を考慮した低平水田域の水稻被害リスクの評価手法

- (5) 雨量強度と時間集中度の組合せで水稻被害量は大きくばらつくため、確率雨量の分布（図2）をリスク評価に利用すると被害量の発生頻度分布が得られます（図3）。
- (6) 同手法を現在から将来にかけて適用すると、期間毎の平均的な被害量や想定される最大規模の値を比較できます。例えばリスク分布の上位10%値でみると、21世紀末には被害リスクが現在の1.28倍になります。このリスクは、玄米単価を用いると容易に被害金額に換算できます。

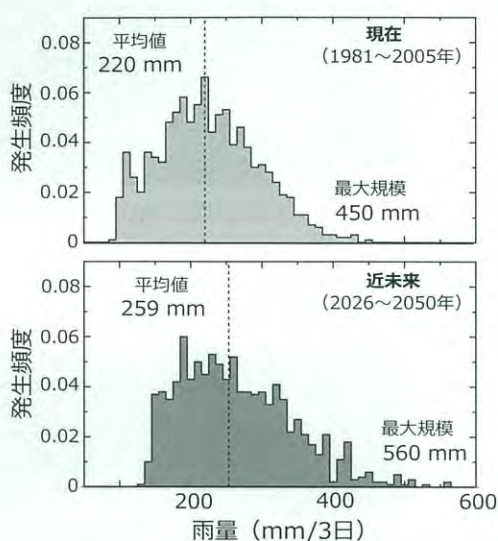


図2 10年確率雨量の強度分布の将来変化
(RCP8.5：温暖化高位参照シナリオの例)

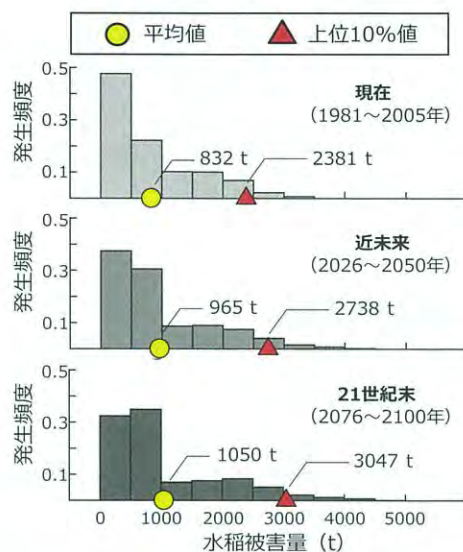


図3 水稻被害リスクの評価結果
(RCP8.5：温暖化高位参照シナリオの例)



図4 手法の活用方法

3. おわりに

本手法は、複数の気候シナリオの特徴を反映させて作成した多数の豪雨群を用いるため被害量や金額を統計的に評価でき、気候変動を見越した将来のリスク変化を盛り込んだ新たな排水計画手法の発案につながるほか、農地浸水マップの策定や排水機場での事前排水のような施設管理・操作法の想定にも役立つと考えています。

今後、本手法を用い、都市域を含めた洪水・氾濫解析を行うことにより、都市浸水を防ぐために農地の洪水緩和機能を取り込んだ流域一体での水管理手法の検討にもつながります（図4）。

※ この内容に興味を持たれた方は、お気軽にお問い合わせください。

（問合せ先）農研機構 農村工学研究部門 地域資源工学研究領域 水文水資源ユニット
担当：池山和美 TEL:029-838-7538 E-mail:ikeyamak970@affrc.go.jp

国営土地改良事業地区調査「河北潟周辺地区」の状況

1. 地区の概要

「河北潟周辺地区」は、石川県中央部に位置し、国営干拓事業河北潟地区（昭和38年度～60年度）及び干拓附帯土地改良事業（昭和38年度～48年度）において、河北潟の干陸化を図り、沿岸地域の排水改良及び潟面積縮小に伴う洪水調整能力の減退対策として、防潮水門・放水路・周辺排水機場の造成や河川改修などを実施し、安定した農業経営が営まれてきました。



河北潟周辺地区（航空写真）

2. 地区の課題

本地区の課題として以下の点があげられます。

（1）排水の課題

近年の集中豪雨、地盤沈下等により干拓地では排水不良の畑地が増加しており、沿岸地域においては、降雨量の変化、都市化の進展による流出形態の変化や地盤沈下等に起因した排水施設の機能低下により湛水被害が頻発しています。

（2）営農の課題

農業就業者の高齢化が進むなど、農業を取り巻く情勢は日々変化しています。本地区では、干拓地・沿岸地域の産地の収益力向上を通じた経済の発展など、地域に貢献できるような営農のあり方についても検討する必要があります。

当事務所では、湛水被害等の解消と農業生産の維持及び農業経営の安定を図ることを目的に、平成27年度より地区調査を行っており、事業着手に向け、各種調査・計画を進めています。



農地の湛水状況（H29.7）



周辺道路の冠水状況（H29.7）

3. 事業概要

関係市町	石川県金沢市、かほく市 河北郡津幡町、内灘町
主要工事計画	・防潮水門（改修） 1箇所 ・排水機場（改修） 9箇所 ・水管理施設 1式



キャベツの収穫（干拓地）

4. 調査の状況

平成29年度は、主要施設である防潮水門のゲート構造の設計、排水機場及び水管理施設の基本設計を実施し、施設の整備計画を検討しました。

また、これまで実施してきた受益面積調査、営農実態調査、環境調査等の結果を踏まえ、営農計画（案）及び環境配慮計画（案）を策定しました。環境配慮計画（案）については、今後、学識経験者等から構成される「北陸農政局国営事業の環境に係る情報協議会」の助言を踏まえて確定となります。



保全対象生物：チュウヒ

5. 技術検討委員会の開催

当事務所では平成28年度に専門的知見を有する学識経験者等から構成される技術検討委員会をたちあげ、各種課題の解決に向け検討を行っています。

この委員会は、河北潟周辺地区の主要施設に関する技術的な課題の検討を行う「施設計画・管理部会」と、事業完了10年後を見据え事業目的を踏まえた望ましい農業のあり方について検討を行う「営農部会」で構成されており、平成29年度は7月と9月に施設計画・管理部会を、11月に営農部会を開催し、今年度の調査結果を報告し意見や助言をいただいたところです。

今後、いただいた意見等を踏まえた事業計画の精査を行い、より効果的な事業計画になるよう努めて参ります。



改修を待つ河北潟防潮水門



営農部会による現地視察（レンコン畑）

国営施設応急対策事業「早月川地区」の概要 ～建設から60年経過した水路トンネルの改修に着手します～

1. 地区の概要

本地区は、富山県の富山市、魚津市、滑川市及び中新川郡上市町に位置する2,735haの水田地帯です。本地区では、水稻を中心に水田畑利用による大豆、大麦、野菜を組み合わせた農業経営が展開されています。



白ねぎのほ場



大豆のほ場



さといものほ場



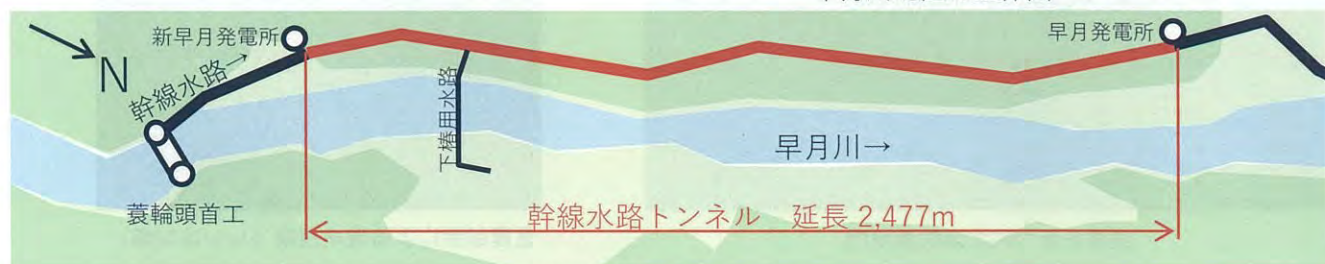
さといも焼酎

2. 幹線水路トンネル（早月隧道）

幹線水路トンネルは、地区の用水を支える基幹的な農業水利施設です

幹線水路トンネル（早月隧道）は、昭和28年度～昭和37年度、国営早月川土地改良事業により建設されました。

同トンネルは地区の最上流部に位置しており、蓑輪頭首工から取水した水は、すべて同トンネルを通過して農地に届けられています。



蓑輪頭首工



トンネル入口



トンネル内部



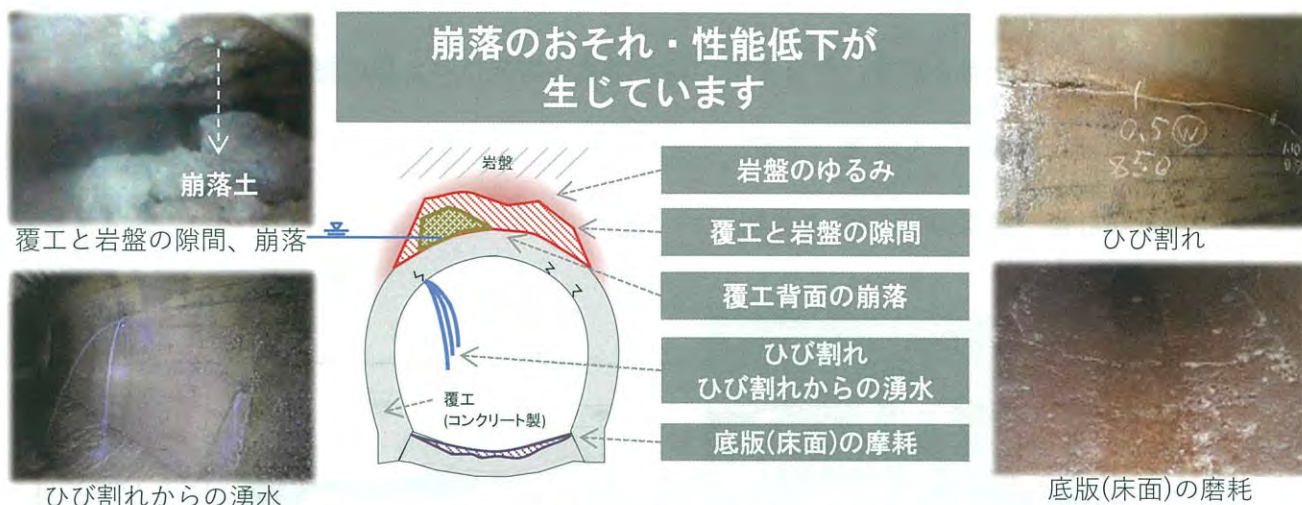
早月発電所※

※同トンネルは早月発電所等の発電用水の流路としても活用されています。

3. 本事業の概要

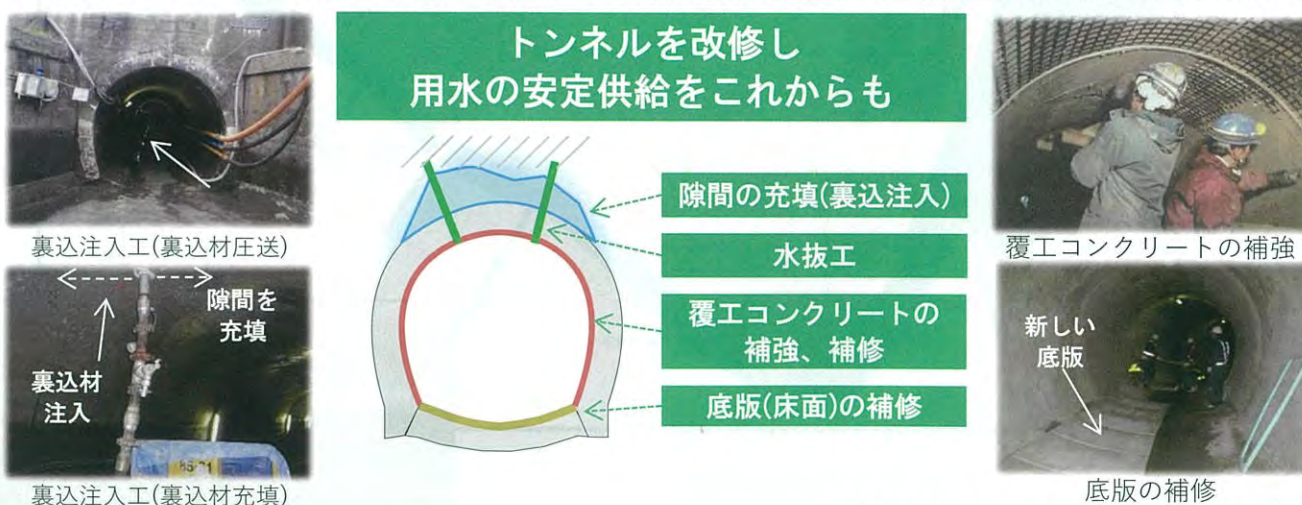
トンネルは、改修を必要としています

同トンネルは建設から約60年が経ち、崩落のおそれや性能低下が生じています。仮に、同トンネルに崩落が起これば、用水の供給が停止し、大きな被害につながります。



本事業では、トンネルを健全な状態に戻し、長寿命化します

本事業は、同トンネルの劣化箇所を改修し、用水の安定供給及び農業経営の安定を図るものです。



※上記の改修イメージ写真は他地区のもので

1 工事内容 (予定)

工 種	目 的
1.裏込注入工	覆工背面の空洞を埋めて、①地山を安定化、②転石の落下を防止
2.水抜工	地下水をトンネル内に抜き、トンネル覆工にかかる水圧を減ずる
3.トンネル補強工	強度の足りない箇所を補強
4.底版補修工	摩耗した底版を補修
5.その他	ひび割れ、断面欠損、目地の補修

2 事業工期 (予定) 平成30年度～平成35年度 (6年間)

3 事業費 (予定) 19.6億円 (平成28年度単価)

国営施設応急対策事業「河北潟地区」の 工事実施状況

1. 事業概要

本事業は、国営河北潟干拓土地改良事業（昭和38年度～昭和60年度）により造成された4箇所の揚水機場について、施設の機能を保全するための整備を行うことにより、農業用水の安定供給及び維持管理の軽減を図り、農業生産の維持及び農業経営の安定に資するため、平成27年度より事業を実施しています。

- ・ 関係市町村：石川県金沢市、かほく市、河北郡津幡町及び河北郡内灘町
- ・ 受益面積：851ha
- ・ 事業工期：平成27～32年度（予定）
- ・ 事業費：30億円（予定）
- ・ 主要工事計画：揚水機場改修 4 箇所



2. 平成29年度工事実施状況と今後の予定

本地区は、取水量の少ない冬期間に工事を実施する必要があることから、1年1機場を改修計画とし、また、工事に伴いポンプが停止する期間は他地区掛の揚水機場から配水する計画としています。平成29年度は東部第2揚水機場の改修工事を実施中で、平成30年度には、南部揚水機場の改修を予定しています。

＜東部第2揚水機場ポンプ設備改修前＞



主ポンプ設備改修前



圧力タンク上屋改修前

＜ポンプ設備改修＞

ポンプ設備及び電気設備の改修を行っています。



主ポンプ据付状況（φ200 横軸両吸込渦巻ポンプ）



電気盤据付状況



＜付帯設備改修＞

ポンプ付帯設備の改修を行っています。



機場内配管更新状況



吸水槽表面補修状況



＜圧力タンク上屋改修＞

圧力タンクを設置する上屋の改修を行います。通常の杭打機（40ton級）が進入できないことから、基礎杭は羽付鋼管杭による回転貫入工法で施工しています。



既設上屋撤去工（木造）



基礎杭施工
（羽根付鋼管杭 L=25.0m）



地中梁コンクリート打設

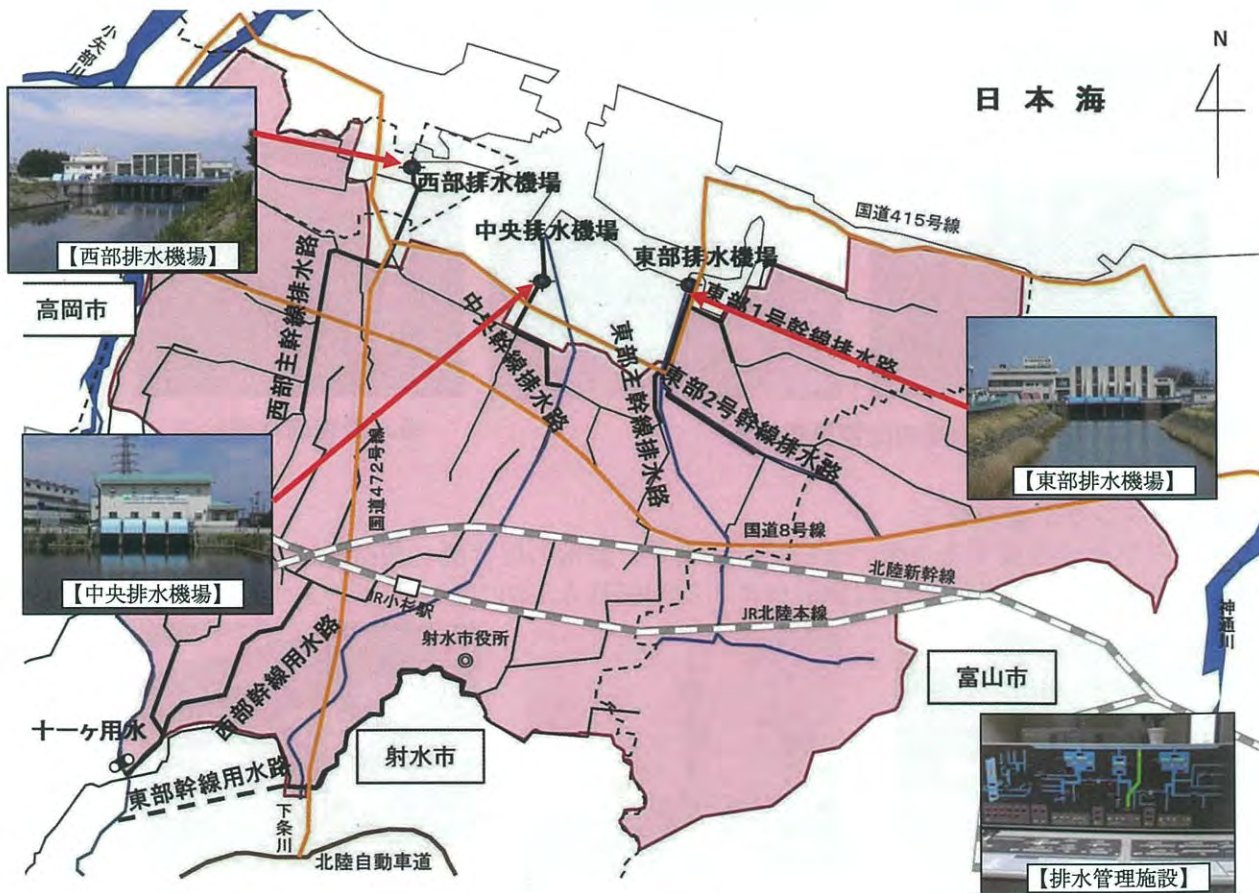
国営施設機能保全事業「射水平野地区」の 工事実施状況

1. 事業概要

本事業は、国営射水平野土地改良事業（昭和38年度～昭和51年度）及び国営射水郷土地改良事業（平成3年度～平成12年度）により造成された基幹排水施設について、施設機能を保全するための整備を行うことにより、施設の長寿命化を図るとともに、排水機能の維持及び維持管理の費用と労力を軽減し、農業生産の維持及び農業経営の安定に資するため、平成25年度より事業を実施しています。

- ・ 関係市町村：富山県富山市、高岡市及び射水市
- ・ 受益面積：3,153ha（水田 3,103ha、畑 50ha）
- ・ 事業工期：平成25～33年度（予定）
- ・ 事業費：22億円（予定）
- ・ 主要工事計画

名称	主な工事内容
東部排水機場	・ ポンプ設備改修 ・ 耐震対策
西部排水機場	・ 付帯設備改修 ・ 除塵設備改修
中央排水機場	・ 付帯設備改修 ・ 除塵設備改修
排水管理施設	・ 排水管理施設改修



2. 平成29年度工事実施状況と今後の予定

今年度は、東部排水機場1号ポンプ設備改修工事、西部排水機場ポンプ附帯設備改修工事及び排水機場下部工耐震補強（その5）工事の3件を実施しました。

ポンプ設備改修工事では、既設の設備を分解・点検・補修し性能を新品の状態に戻す作業を行いました。また、下部工耐震補強工事では、吸水槽にひび割れ等の劣化が見られるため、エポキシ樹脂を低圧注入して行う注入工法により補修を行いました。

平成30年度は、西部排水機場除塵設備及び排水管理施設の改修工事を予定しています。

<東部排水機場1号ポンプ設備改修工事>



1号ポンプ搬出

<西部排水機場ポンプ附帯設備改修工事>



3号ポンプ減速機搬出

<排水機場下部工耐震補強（その5）工事> （東部排水機場）



吸水槽劣化補修（ひび割れ充填）



吸水槽劣化補修（欠損部分補修）

【エアリーフローラ】

“優雅な春の女神”という意味が込められた「エアリーフローラ」は、2012年12月にデビューした石川県オリジナル品種のフリージアです。開花の最盛期が卒業や入学など新たな旅立ちの時期と重なることから、キャッチフレーズは「旅立ちを祝う花」、そして花言葉は「希望」です。フリージアと言えば黄色が一般的ですが、エアリーフローラは現在7色で展開中。一重咲きも八重咲きもあり、これまでのフリージアのイメージを変えてくれます。

お知らせ

西北陸土地改良調査管理事務所では、15年ぶりに事務所のロゴマークを見直しました。

事務所の略称「西北（にしほく）」を、水路をイメージした1本の線でつなぎ、稲形を盛り込みました。そして、管内3県の基幹作物である「水稻」をモチーフにしたオブジェクトで「西北」を囲み、この地が「米」で支えられていることをイメージしました。

新たに設置した事務所案内看板にも、新しいロゴマークを表示していますので、来所の折には、是非ご覧下さい。



さわやか西北陸 第55号 平成30年3月発行

西北陸土地改良調査管理事務所

〒923-0801 石川県小松市園町ホ85-1
TEL(0761)21-9911 FAX(0761)21-9985



JR小松駅より徒歩約20分

西北陸土地改良調査管理事務所射水平野支所

〒939-0341 富山県射水市三ヶ624
TEL(0766)30-2220 FAX(0766)30-2224



あいの風とやま鉄道小杉駅より徒歩約10分



西北陸土地改良調査管理事務所

河北潟分室

〒920-0265
石川県小松市河北郡内灘町字大学1丁目2番地1
(内灘町役場内)
TEL(076)255-1030
FAX(076)255-1601

北陸鉄道内灘駅より車で約5分



編集・発行／北陸農政局 西北陸土地改良調査管理事務所

HP: <http://www.maff.go.jp/hokuriku/kokuei/nishihoku/>

当事務所では、地域の皆様とのコミュニケーションをより一層深めていきたいと思っております。地域の情報や本誌へのご意見・ご感想などありましたら当事務所までお寄せ頂ければ幸いです。

